

国語部会

金田 一 清子

国語の真の学力とは：を常に問いつつ 現場の悩みに応える部会に

「すごい！一年生とは思えない発言の数々。どうして？」その秘密を聞いてみると、「子どもの疑問を取り上げ全体に投げかけたことで、子どもたちの発言が多くなり読み深めることができたのです。」

教材分析から授業作りまで部会で皆さんと一緒に学べたお陰です」と若い実践報告者。一年生のうちから、文学を楽しむ経験が大切であると実感できた部会の一コマでした。

ところが、今「アクティブ・ラーニング」という言葉が飛び交う中、これで国語の本物の学力がつくのだろうかと疑問が続出。型にはめた授業方法を一方的に押しつけるのではなく、目の前の子ども達から出発した創造的な国語の授業こそが今こそとめられているのではないのでしょうか。

そんな中、部会では「本物の国語の学

力とは：」と題して「全国学力テストの

分析・批判」（どういう学力を測るテストになっっているか）を本多さんに提案してもらいました。特に印象に残った点をあげてみると：。情報を読み取る問題ばかりのA問題。切り貼り（コピー）能力の要求。文学の読みの問題さえ、自分がどう読んだかなど関係ない。自分の問いや考えなどは許されず、与えられた課題についてだけ考えることが要求される。等、今更ながら、このようなテストで学力が高いとか低いとかを決めつけられる子ども達、振り回される現場。

「こんなテストが、何の役に立つの？」と現場の嘆きの声が聞こえてきそうです。と同時にもつと沢山の人にこの実態を知ってほしいと思えました。現場の参加者の感想を紹介します。

「本多先生は学力テストの設問、一つ一つを解説しながら、全体としてこのテ

ストがどんな学力を測るテストなのかを端的に解き明かしてくださいました。中でも私は（国語A③委員会紹介パンフの問題）は、問を見てから問題文を読むことが近道であり、問題文を読む必要さえないような問になっていることを知り、驚きました。

こんなテストの結果の数値で現場が惑わされ萎縮させられてしまわないようにしていきたいと思えました。本多先生は、私たちの教研活動の中で、このテストがどういう国語学力観、国語科学力構造論に基づいて作られているかということとを批判的に検討していくことが大切であると教えてくださいました」

今後の国語部会では、秋の都教研の国語分科会で感動的な実践報告をしたレポートターの皆さんを招きたいと思えます（若い人もいっぱいでした）。現場に根を張り、目の前の子ども達とすばらしい実践をくり広げており、頼もしい限りです。若い人や現場の悩みに応える部会に行きたいと思えます。

ぜひ、ご参加ください。（共同研究者）

社会科部会

坂爪 邦雄

子ども目線で、楽しくわかる実践をすすめよう

子どもが主人公の実践

部会では、それぞれが進めてきた実践について報告・検討しています。最近は今日的なテーマに焦点を当てた中学校での実践が多く出されました。

坂爪は「子どもの瞳ががやく憲法学習を」というテーマで、人権・平和・民主主義の実現について、生徒がイメージできるように工夫した実践を報告しました。

滝口さんは、夏休みの課題として下ろされる「中学生の税の作文」を題材にとりあげ、「消費税は公平な税？君も借金830万円！」と納税の義務化から納税の権利へというテーマで、税のしくみと国の財政について、実践報告しました。参加者からは、「小学校の教科書では、納税の義務ばかり強調されていて、税本来の役割や納税者の権利意識が育たない」などの声もありました。

社会科をめぐる状況を鋭く見つめる

昨年度は中学校の教科書採択がありました。その時注目された、現場の方が集まって教室から生まれた学び舎の中学教科書「ともに学ぶ人間の歴史」について、編集・作成に関わった山田麗子さんに来ていただきました。そして、教科書づくりや検定申請から合格までの苦労、教科書の特徴などについて聞きました。

さらに、教育研究全国集会の社会科教育分科会の参加者から、中学教科書採択や18歳選挙権と主権者教育の課題など、全国の教育実践・研究の成果について聞くことができ、大いに刺激になりました。

次期学習指導要領と社会科

2015年の夏に公表された「次期学習指導要領の論点整理」から1年半。この間、「論点整理のまとめ」「中教審答

申」が矢継ぎ早に出されました。「学力」から「資質・能力」、また、「アクティブ・ラーニング」や「カリキュラム・マネージメント」、評価などが大きな問題となってきました。同時に教科についても、様々な問題点が出されています。とりわけ高校の社会科では道徳的な内容を盛り込んだ「公共」科が新設されるなど大きく変化することになりました。このことは、だんだんと中学校や小学校にも影響を及ぼしてきていると思われまます。実際、答申は、「高等学校地理歴史科、公民科では（中略）国家及び社会の有意な形成者に必要な公民としての資質・能力を、小中学校社会科ではその基礎をそれぞれ育成することが必要」と述べています。

東京民研社会科部会では、次期学習指導要領で、社会科がどのように変わるかに注意深く見て、研究・実践検討を進めていく必要があると考えています。

社会科に関心のある方、特に小学校の方・青年教師の方、参加大歓迎です。

（東久留米・久留米中）

※坂爪実践は、「子どもと生きる」340号2・3頁

滝口実践は、同本号4・5頁をご覧ください。